

第4節 寧波の商圈概況

1. 寧波の商圈実態

寧波における中心的なショッピングエリアは天一広場である。天一広場の開業によって、元来、中山路沿いに点在していた各々の商業施設が点から線へとつながり、一大商圈が出来上がった。現在、天一広場は寧波の地元の人々がショッピングに出かける際のファーストオプションとなっている。

この他、老外灘と和義路滨江休閒広場は寧波市政府の旧城に対する二大改造プロジェクトであり、寧波市政府が企画する「三江六岸、百里長廊」の中心地域である。天一広場とともに、「三江口コア商圈」を構成することとなる。

また、江東区、海曙区、江北区なども独自の環境や雰囲気に合わせて、特色のある商圈の建設が計画されている。

現在建設中の寧波の地下鉄1号線は、市の東西を結んで高橋地区から北侖までを連結しており、19の駅を設置、全長約21.3キロ。2014年に開通を予定している。また、2015年に完成を目指す寧波地下鉄2号線もまた2010年から第1期工事がスタートしており、海曙・江北・鎮海など5つの行政区を貫き、空港のほか、寧波南駅、バスターミナル、寧波大学などを結ぶ予定である。

〔寧波市内主要商圈の位置関係図〕



(1) 天一商圈

天一商圈の中心を構成する天一広場はワンストップ機能を持つ総合型ショッピング・レジャー施設である。同商圈は米国 MRMADA 設計士事務所と寧波建設設計院の共同設計によるもので、モダン性、溢れる緑、水際というテーマを寧波独特の文化と融合させた独創的なデザインが魅力的な商圈である。商圈内には10の大型商業区(スーパー・マーケット区、高級ブランド品区、アパレル区、キッズ区、デジタル製

品区、お酒屋区、アミューズメント区、美食区、総合区)、そして中心広場からなる。

天一広場は、寧波の中心的繁華街と言える中山路の南側に位置し、敷地面積は20万平米、建築面積は22万平米を超えている。広場全体は、22のモダン建築群からなり、中央部には噴水を中心とした6,000平米の水域景観を取り囲む3.5万平米の広場が設けられている。



天一広場の俯瞰図

天一商圈は、東が車轎街、西が開明街、北が中山東路、南が薬行街をそれぞれ境目とし、天一広場自体以外に、中山東路沿線にある金光中心、新世界百貨、東方商厦、第二百貨等の百貨店も同商圈に属している。更に、2009年9月には、国際トップ

ブランドを数多く集める和義大道購物中心が開業したことで、商圈は更に中山東路の北に広がり、一段レベルアップした感がある。

主要な商業施設:銀泰百貨天一店、新世界匯美百貨、寧波第二百貨商店、東方商厦、金光百貨、新世界百貨(江東店)など

(2) 万達広場商圈

万達広場は鄞州中心核心区に位置し、東側では寧波市の主要幹線道路である天童北路と連結し、北側には四明中路と繋がり、南側には鄞州区政府に近い貿城中路と隣接し、西側には寧南北路と結ばれている。施設の敷地面積は21.09ヘクタールで、国際購物広場、国際ビジネスホテル、高級マンションの3部分から構成されている万達広場が次に狙っているのは、寧波旧城にある鄞州中心区。この地域には大量の住宅団地が従来から存在している。この地域を取り込み、天一広場とは別の第2の繁華街を作ることを目標としている。現在、寧波のショッピング需要は、天一広場を中心とする中山東路地域に集中している。そこで、万達広場は天一広場に集中する消費者を分散させる役割を果たしている。



万達広場の俯瞰図

主要な商業施設:銀泰百貨、国際購物広場など。

2. 寧波概況

寧波は浙江省において副省都級の都市で、同省の三大経済都市の1つでもある。「海定則波寧(海穏やかに波静か)」の意を取って寧波と名づけられ、そして「甬」とも略称されている。寧波は港で知られており、唐の時代からすでに日本や新羅(現在の朝鮮半島)、東南アジアと通商している。特に2000年以降、北侖港は深水港に改造され、河口都市から港湾都市へと変貌してきた。

(1) 地理、気候

寧波は浙江省の東側に位置し、長江デルタの南部に属する。海岸線でいうと、中国大陸海岸の中央ゾーンにある。また、寧紹平原に属するため、北アジア熱帯季節風気候が鮮明であり、通年的に温暖湿潤で、冬・夏の季節風の切り替えが顕著である。通年の平均気温は16.4℃で、7月の平均気温は28.0℃、1月の平均気温は4.7℃となっている。

(2) 面積、人口

寧波市の総面積は9,671.59km²。2010年の常住人口は760万人に達している。

(3) 市区構成

市内の行政区画については、海曙、江東、江北、鎮海、北侖、鄞州の6つの区と寧海、象山の2つの県、そして慈溪、余姚、奉化の3つの県級市を管轄している。

(4)交通

①航空

寧波櫟杜空港は、寧波の西南部に位置し、空港全体の敷地面積は 250 万平米である。現在、北京、上海、広州、深圳、成都、重慶、アモイ、青島、大連、ウルムチ、ハルビン、昆明、蘭州など 30 数本の国内路線と香港、韓国などの国際路線が発着している。

②鉄道

2005 年に「寧波鉄道中枢総図企画」が策定され、2020 年までに甬台温(温州、福州、シンセンなど)鉄道、滬杭甬(上海、杭州、寧波)城際高速鉄道、甬金(寧波、金華)鉄道、杭州湾海上鉄道大橋、甬舟(寧波、舟山)鉄道など 6 本の新規鉄道が暫時的に追加建設される予定である。その実施に当たり、寧波は長江デルタの一大鉄道中枢駅となる見込である。

2010 年 9 月に寧波東駅が開業したが、寧波(旧)南駅が完成を予定する 2012 年までの仮駅とされており、新たな寧波南駅はこれまでの 17 倍の規模になり、あらゆる公共交通機関の拠点となる予定である。

③高速道路

寧波の高速道路状況は元来それ程便利ではなかったが、杭州湾海上大橋の開通をきっかけに、「1 環 6 射」(1 本の円形環状高架線、(上海、杭州、金華、温州、舟山とつなげる)6 本高速道路)プロジェクトが策定され、寧波周辺の高速道路建設ブームも進行し、長江デルタ運送システムのなかで大きな働きをなすことになる。



杭州湾海上大橋